

volunteer

ボランティア

ボランティアセンターだより

2010.11

大崎市ボランティアセンター

サマーチャレンジボランティア2010スポーツ

【1回目】平成22年7月29日(木)

初日は、古川農村環境改善センターで開講式が行われました。チャレンジ①は、「キャップハンディ体験」です。

すべての体験で重要となる車椅子や白杖、高齢者擬似体験をし、基本操作について学びました。



高齢者擬似体験をしてみて、床に座ったり立ち上がったりののがむずかしく、転びそうになり、身体が自由にならないことは大変なんだと実感しました。
富永小学校 6年
田中 智沙



白杖体験では、介助方法を学び、相手を考えながら一緒に歩き、声をかけながら歩行するのは大変でした。
岩山小学校 5年
伊藤 青空



チャレンジ②では、大崎市身体障害者福祉協会のみなさんのご指導のもと、「障害者スポーツ交流」を実施しました。フライングディスクとポッチャについて、競技やルールを学び、スポーツを通じた交流ができました。



障害者スポーツで感動したことは、ポッチャやフライングディスクなど、サッカーや野球に負けないくらいおもしろく、むずかしいスポーツです。



私は、何年かかってもいいので、障害者スポーツが増えてほしいです。
田尻小学校 5年
石崎 千晴



フライングディスク大会をして、国体選手の方々に負けてくやしかったです。
東大崎小学校 4年
後藤 拓磨

【2回目】平成22年7月31日(土)

2日目となるサマチャレは、短期入所生活介護施設「楽々楽館」の夏まつりボランティア体験を行いました。夏まつりボランティア体験では、チャレンジ③として、夏まつりで披露する出し物は、利用者の方も知っている「古川音頭」をすることになり練習しました。



夏まつりで披露する出し物を練習して、おじいさん、おばあさんに喜んでもらえるようにがんばりました。
岩山小学校 5年 谷口 葵

チャレンジ④では、出店班、交流班、ちびっこ広場班の3班に分かれ、夏まつりボランティア活動です。おじいさん、おばあさん、地域の方や子どもたちに楽しんでいただけるようボランティア活動をしました。

★ちびっこ広場班

ちびっこ広場班は、夏まつりに遊びに来てくれた子どもたちに、水ヨーヨー釣りや輪投げ、ストラックアウトなどで遊んでもらうコーナーのボランティア活動をしました。



みんなで力を合わせて、お客さんをおんだりしました。お客さんがいっぱい来てくれてよかったです。
東大崎小学校 4年
佐々木 優衣

ちびっこ広場では、ストラックアウトを担当しました。みんな楽しそうにやっていたので、よかったとすごく思いました。
古川第三小学校 5年
細谷 岳

★出店班

出店班は、かき氷やフライドポテト、ジュースなど、夏まつりに来てくれた方、利用者さんへお渡しするボランティア活動をしました。



利用者さんやお客さんにかき氷を出すボランティアで、良いかき氷を作ろうとすると慌ててしまったりしたけど、みなさんに喜んでもらえてよかったです。
鹿島台中学校 2年
渡辺 沙都



いよいよ夏まつりはじまり、ジュースの出店ボランティアをしました。最初は、お客さんが来るか心配でしたが、いっぱい来てくれてうれしかったです。
古川第三小学校 4年
富田 征治

平成22年7月29日から3回にわたって、大崎市内の小・中学生を対象に、ボランティア活動や交流、福祉体験を通じて、福祉への関心や理解を深めることを目的として、福祉体験学習「サマーチャレンジボランティア2010」(以下:サマチャレ)を開催しました。

大崎市内の小・中学校の児童・生徒26名のみなさんが、3日間にわたり、障害者スポーツ交流や福祉施設でのボランティア活動、実際に外へ出てのキャップハンディ体験を通じて、7つのチャレンジを一生懸命取り組んでいました。

★交流班

交流班は、デイサービスの利用者さんとお話をしたり、一緒に出店に行ったりするボランティア活動をしました。



おじいさん達が喜んでお話ししてくれてうれしかったです。
古川第五小学校 5年
松岡 七海

どのように話かけたらいいのか分からず困ってしまいましたが、勇気をだしておばあさんに話しかけたら、いろいろお話しができてすごくうれしく、楽しくなりました。
富永小学校 6年
田中 智沙

チャレンジ⑤は、夏まつりでのアトラクションです。午前中に練習した「古川音頭」をみんなで踊りました。利用者さんやお客さんにすごく喜んでいただきました。



【3回目】平成22年8月2日(月)

3日目最後となるサマチャレは、キャップハンディ体験や障害者スポーツ交流、楽々楽館での夏まつりボランティア活動を通じて学んだことを、実際に街へ出かけて、高齢者や障害者の方の視点になって車いすや白杖を使用し、歩きながらスロープや歩道の段差などを確認しました。チャレンジ⑥では、街へ出かけての体験学習をしました。

★1班 (JR古川駅〜リオーネふるかわ)



いろいろ気付かない段差があり、高齢者の方だとつまずいたりして危険だと思いました。
古川第一小学校 5年
齊藤 花凛



点字ブロックの上に、自転車が止めてあって危険でした。
古川第五小学校 4年
松岡 美海



実際に街を歩いてみて、アイマスクをしていると、どこに点字ブロックがあるかわからなかった。
富永小学校 4年
蓮沼 智佳

★2班 (古川北町セブンイレブン〜リオーネふるかわ)



白杖を使って街を歩いてみて、信号などがわからなかったけど、音の出る信号だったので、目の不自由な方にはすごく良かったです。
岩山小学校 6年
佐々木 光太

普段歩いていても気付かないことも、意識して歩くと、私たちから普通の方が見ると、危険な事がいっぱいあるんだと思いました。
岩山小学校 5年
八巻 佳奈

★3班 (大崎市役所〜リオーネふるかわ)



車椅子や白杖を使って体験してみても、いつもより段差や階段が怖く感じました。
東大崎小学校 4年
手代 萌瑛



体験をしてみて、点字ブロックがあったり、歩道が広かったり、ベンチが沢山あったりで、みんなにやさしい街だと思います。
囃子中学校 1年
阿部 遼南



車いすや白杖で街を歩くと、普段歩いている道でも、危険がいっぱいあることが分かりました。
三本木中学校 2年
松本 弓夏

チャレンジ⑦は、車いすや白杖を使用して街へ出かけて体験したことを、グループごとにまとめ、発表しました。各グループからは、街を歩いている段差やブロックの破損、点字ブロックの上に自転車が止めてあったりと、改善してほしい所や高齢者や障害のある方にやさしい所など、子どもたちの視点で素晴らしい意見が発表されました。参加者は、「段差やブロックの破損などすぐに直すことが難しいから、声をかけて手伝うことが大切」と話していました。

この3日間を通じて、グループでの体験や活動を通じて、より深い絆が生まれ、「思いやり」や「助け合う」ことの大切さを学ぶことができ、サマーチャレンジボランティアに参加して、福祉やボランティア活動に気づき、ここから始まる学校生活やボランティア活動に役立ててほしいと願っています。

わたしの将来の夢は、おかあさんが看護師やデイサービスで働いていたので、看護師になって、デイサービスで働きたいです。
西古川小学校 4年
但木 奈津美

身近で何かできることがあったら、この活動を生かしていきたいです。
岩山小学校 6年
長谷川 千夏

